

紺碧

こ ん ぺ き

夏・秋

summer autumn
2023 vol.08



特集

地域の命を支える 埼玉石心会病院の救急医療

埼玉石心会病院 | ER総合診療センター長 西 紘一郎 医師

埼玉石心会病院 | 救急科診療科長 神戸 将彦 医師

高規格救急車を2台所有。
患者さんの転院搬送等を行なっています。



特集

地域の命を支える 埼玉石心会病院の救急医療

救急搬送の件数は全国的に増加しており、救急医療の重要性が一層高まっています。今回は埼玉石心会病院の救急医療体制、役割などについてご紹介します。

救急搬送の応需率99%

二次救急医療機関として地域の急性期医療を担っている埼玉石心会病院では、救急搬送件数が増加しています。

2022年は、2021年より676名多い、1万13名に応需し

ました。これは高齢者の増加に加え、新型コロナウイルス感染症などの拡大により、医療を必要としている人が、年齢を問わず増えているからではないかと考えています。この状況に対応するため、当院

のER総合診療センターは埼玉西部地区の救急医療の拠点として、軽症から重症まで、すべての救急患者さんを受け入れる『断らない救急』を実践しており、約99%の高い応需率を維持し続けています。(12ページ 救急搬送受入状況参照)

超高齢社会が進む日本の現状を鑑みると、当センターの役割は、今後ますます重要になると考えています。医師、看護師、救急救命士、各医療技術職に当センターの体制や役割を伺いました。



※応需率:消防本部による医療機関への傷病者の搬送依頼に対して、医療機関が要請に応じて受け入れた割合



救急搬送された患者さんの初期治療を行うベッド 4床 (うち個室 1床) を備えています。

患者さんに最適なケアを提供するため、日々、チーム医療に努めています。



ER総合診療センターの中心拠点。救急外来を受診された患者さんの経過観察をするベッドが21床あります。



医師が語る埼玉石心会病院の救急医療の地域での役割とは

ER総合診療センター長 西 紘一郎



にし こういちろう
ER総合診療センター長 西 紘一郎

- ・日本救急医学会指導医
- ・臨床研修指導医
- ・日本救急医学会救急科専門医
- ・医学博士

ER総合診療センターとは

地域から求められる医療ニーズに対応

当ER総合診療センターは、救急科、総合診療科、救急外科、集中治療科といった診療科で構成されており、外来診療から集中治療、一般入院診療まで、24時間365日、救急患者さんに対応しています。

石心会の基本理念である「断らない医療」のもと、患者さんを積極的に受け入れており、その結果、2020年度、2021年度、2022年度において埼玉県内での救急搬送受け入れ件数が1位となりました。地域からの高い医療ニーズに応えることができていないかと考えます。

最適なケアの提供を目指す

患者さんが救急外来を受診する病気やけがは多種多様で、脳卒中や心筋梗塞、重症な肺炎といった重篤なケースから、軽度の外傷や風邪などの症状までさまざまです。初期治療を行うにあたり、重症の方を優先していますので、軽症の方は待ち時間が発生することもあります。全ての患者さんに対して可能な限り誠実に対応するよう努めています。

患者さんに最適なケアの提案を

私自身の救急医療への考え方は、「救急治療のその後まで考慮する」ことが重要だと考えています。初期治療が終わったあとに、患者さんの状態やその後を考慮して、最適なケアを提供するために、適切な病院への転院や専門家への連携を提案するようにしています。

当院の救急外来では、救急専属

の各職種のスタッフたちがいることから、救急外来を受診する患者さんに、初期治療を含めた、連携医療機関や関係施設の提案や多面的なサポートを行っており、質の高い医療サービスを提供しています。

地域での役割

地域医療の役割を果たすために

救急医療のニーズは今後も増える予想されており、どう対応していくのが地域全体の課題になっていきます。患者さんにこれからも適切な医療を受けてもらうには、医療機関や関係施設などとの更なる地域連携、仕組みづくりが大切です。

地域全体の医療体制の中心施設として、また、地域の更なる医療ニーズに応えていくためにも、当センターでは医療体制を整備していく方針です。引き続き地域医療の役割を果たせるように努めていきたいと思っております。

※ 2020年度8,380件、2021年度9,298件、2022年度9,970件 [埼玉県危機管理防災部消防課より]

ER 総合診療センター



救急医療の効率と質を高める
チームの連携と救急医の役割

救急科診療科長 神戸 将彦

当センターの体制

一秒でも早く治療を始めるために

当センターは、日勤帯でも夜勤帯でも2〜3名の医師を配置しています。看護師と救急救命士は、日勤帯はもちろん、夜勤帯でも十分な人数で体制を組んでいます。その他にも、救急専属の薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師も配置されており、多職種が協力し合って患者さんに一秒でも早く対応できるような体制を整えています。

が対応します。患者さんの状況や既往歴などから、どのような疾患が疑われるのかを予測し、必要な処置や検査などの情報を医師や看護師と共有します。その情報を基に、受け入れるベッドを決定し、点滴や検査の準備を始めます。ある程度の準備が整った状態で患者さんが到着するため、効率的に治療が進められます。

最適なケアを提供
するために

迅速に対応するための体制

患者さんを受け入れる際の基本的な流れですが、まず救急要請のホットラインが入ると救急救命士

救急医療において特に緊急性が高いのは、脳外科領域、心臓血管外科領域、循環器内科領域です。



救急科診療科長 かんべ まさひこ 神戸 将彦

- ・日本救急医学会救急科専門医
- ・日本内科学会認定内科医
- ・日本内科学会認定総合内科専門医
- ・日本呼吸器学会呼吸器専門医
- ・ICLS/JMECC認定ワークショップディレクター
- ・身体障害者指定医
- ・臨床研修指導医
- ・日本DMAT隊員
- ・緩和ケア研修会終了

脳卒中、大動脈解離、心筋梗塞などは、対応の速さで患者さんの予後が大きく変わるため、救急医と各診療科の医師との連携が非常に重要です。救急医の初期診断後、専門医に速やかにつなぎ、専門的な医療ケアを迅速に提供するため、当院ではオンコール体制を整えています。

また、埼玉県全体の取り組みとして、「埼玉県急性期脳卒中治療ネットワーク(SNN)」「埼玉県大動脈緊急症治療ネットワーク(SAN)」があります。これは当院に限らず、救急隊がネットワークに加入している病院の専門医に直接連絡して診療につながるという仕組みです。

救急医の役割

初期診療のスペシャリストとして

救急外来を受診する患者さん、ご家族に安心していただくため、丁寧な対応が必要になります。私自身は、救急外来という緊急性の高い環境で医療の質を保つために「初期診療のスペシャリスト」であることを意識しています。

一般的に、救急医は「何でも屋」として専門医への橋渡しをする役割や、命を救うことが主な責務であると認識されがちですが、「どの処置や検査を、どの順番で行うか」を各患者さんに対して適切に判断し、迅速に対応できる環境を常に整えておくことも大切な使命です。

例えば、脳出血疑いの患者さんと、大動脈解離疑いの患者さんが同時に搬送された場合、「どちらのCTを先に撮るべきか」を即座に判断することは、時間効率とケ



アの質向上に直接つながります。さらに、患者さんがCT室に到着後、すぐに撮影できる体制を整えておくことも重要です。これらは医師一人ではできないことではなく、「チームの連携」が欠かせません。受付で数分、看護の処置で数分、検査の待ち時間で数分、結果の共有で数分など、チーム全員が少しずつ時間を短縮することで、患者さんの予後が大きく変わる可能性があるのが救急医療です。チーム全員が全力で対応できる雰囲気を作ることも、救急医としての重要な役割だと考えています。

※1 ホットライン: 消防本部から直接連絡が入る専用電話

※2 オンコール体制: 緊急時に備えて病院などに駆けつけられるよう自宅などで待機する勤務形態



病院救急救命 士の主な業務

- [院内]
 - 救急受付
 - 電話受け入れ対応
 - トリアージ
 - ERでの診療 補助
 - ERでの救急 救命処置 (医師の指示のもと)
 - 入院調整
- [院外]
 - 病院救急車 での患者搬送



EMT課 そがべりょう 曾我部 諒

患者さんと医療チームをつなぎ
途切れない医療を提供

救急救命士 曾我部 諒

EMT課とは

患者さんと医療チームをつなぐ

救急車や救急外来で来院される患者さんの多くが、当院で最初に接するのがEMT課※1に所属する救急救命士です。すぐ医療が必要な患者さんに対して、どうすれば迅速に受け入れられるか、どうすれば速やかに医師につないで診療できるか、という点を常に考えています。

病院で働いていますが、同じ救急救命士である消防の救急隊がどのようなルールで、どのような処置を行っているのかを理解しているので、救急車が病院に到着する前に、患者さんに必要な検査や処置をシミュレーションして、事前に準備をするようにしています。

ホットラインへの対応

当院の救急救命士は、消防の救



急隊からのホットライン※2に対応しています。

救急隊とのやり取りでは必要な情報を短時間で得るため、報告を遮らず全て聞き、不足部分だけを質問するようにし、「コミュニケーションをスムーズに行うこと」を心がけています。

緊急の患者さんほど、すぐに連れてきて欲しいと思う反面、医師や看護師に報告するため、できる限り多くの情報が欲しいという思いが交錯します。どちらも大切なので、状況に応じたバランス感覚が大切だと感じます。「断らない医療」を実現するため、EMT課の全員が同じ意識で対応しています

転院先医療機関への情報共有

当院で初期治療を終えた患者さんの状態やその後を考慮して、適切な連携医療機関などへの転院調整を行うのも大切な業務です。転院先が決まりましたら、場合によっては当院の救急車で搬送することもあります。その場合、可能な限り、当院の救急救命士が同乗して搬送できるように体制を整えています。

最初から患者さんに関わっていた救急救命士が付き添うことで、救急外来での所見・施行した処置内容・検査結果はもちろん、搬送中の観察なども含め、転院先医療機関への情報共有を、正確かつ不足なく行うことができます。

また、最近では他院の救急救命士の話や、消防局の救急救命士と意見交換をしたりと、横のつながりができてきたことで、他院との連携もスムーズになり、患者さんの転院搬送の際も安心して対応できるようになりました。

病院救急救命士の役割

途切れない医療を提供するために

救急救命士は、救急の現場から病院に到着するまでの対応を専門とする資格でしたが、2021年10月の救急救命士法の改正・施行により、救急現場・救急車内ではできなかった救急救命処置が、病院内の救急外来でも行うことが可能となりました。

この改正で、医療機関での救急救命士の需要が高まっています。必要な研修を修了し、認定を取得すれば、患者さんの診療等にたずさわる機会も増えるので、やりがいを感じます。

ホットラインへの対応から、初期治療を終えた患者さんの転院搬送まで担当している当院の救急救命士は、患者さんの情報を速やかに医師、看護師、連携先医療機関と共有して、途切れない医療を提供することが使命だと考えています。

※1 EMT:Emergency Medical Technician (救急救命士)

※2 ホットライン:消防本部から直接連絡が入る専用電話

ERの医療スタッフ



放射線部 やまだ こういち 山田 幸一 (診療放射線技師)

放射線部は、ERに搬送された患者さんに対して、最初の画像診断としてCTやMRIの検査を24時間365日行っています。ERでの患者さんは通常、診断がまだ確定していない状態ですので、その後の治療や手術につながるよう目的に応じた画像撮影を心がけています。このような緊急の医療環境では、他職種と連携したチーム医療が不可欠です。私たちの役割は、効率的かつ正確な画像診断を提供することです。今まで培った専門的な知識と経験を活かし、患者さんの診断と治療に最も適した情報を提供できるよう努力しています。



薬剤部 おまた かな 小俣 香菜 (薬剤師)

薬剤部は、常用薬や副作用アレルギー歴の確認、急性期脳梗塞に使用する血栓溶解剤の調製、さらに患者さんや医療スタッフからの薬剤に関する相談に応じるなど、多岐にわたる業務を行っています。ERの特性としては、常用薬やアレルギーなどの情報が不十分な状況下で迅速な対応を求められる点です。新しく得た情報があれば、他のスタッフと共有するよう心掛けています。救急医療の一助となれるよう、薬に関する知識とスキルを更に向上させたいと考えています。



検査部：生理検査室 よしだ たかのり 吉田 貴典 (臨床検査技師)

検査部は、心電図、超音波検査、POCT（患者さんの近くでリアルタイムに行う検査）を担当しています。ERの特性としては、診察や治療に直結する結果・評価を意識しながら、迅速性を心掛けています。患者さんのバイタルや症状、そして医師をはじめ他部署スタッフからの情報も参考に業務を遂行しています。特に、患者さんのベッドサイドで施行する心電図判読や超音波検査所見が診断や治療の決定要素になることもよくあり、緊張しながらも臨床に貢献できること、また救急チームの一員として協力できることにやりがいを感じています。



看護部 こうすみ えりな 甲角 恵莉奈



救急外来での看護師の役割は「診療の補助」が大きな割合を占めます。救急車で搬送された患者さんには、看護師がファーストタッチ（初期対応）を担う場面も多く、トリアージを含めて診療に密接に関わっています。

看護師の視点においても、一般床と救急外来とは大きな違いがあります。一般床は「疾患名」が明らかなので、疾患に特化した視点が必要ですが、救急外来は初見の患者さんに「症状」から入るため、より広い視野が求められます。

例えば、脳出血の疑いがある患者さんには「どう関われば、より良い予後になるか」「最良の状態につながるために今何をすべきか」と考えて対応します。対応のスピードで患者さんの予後に影響を与える可能性があるため、全体像を把握して必要な措置を迅速に決定することが重要です。

このような考えに基づき、「より

全面的、かつ具体的に医師の指示を理解し、医師に近い視点で対応できるように」という目的から救急領域の特定行為研修を受けています。

救急外来では、重症度や緊急度に合わせて対応するため、お待たせしてしまう患者さんがいらっしゃいます。何らかの辛さを抱えて来られていることは理解していますので、可能な限り早く対応したいのですが、「救命」という視点で優先順位をつけなければなりません。

お待たせしている患者さん、ご家族に接する際は「自分が患者になったとき、家族になったとき」を想像して、「必ず対応します」と伝えるように誠実な対応を心がけています。患者さんやご家族に、「待たされているけど、精一杯やってくれているのだ」とご理解していただけるように配慮するのも、看護師の役割だと思っています。

看護師の役割

広い視野と迅速な判断

救急医療の現場で求められる看護師の多面的な役割

看護師 甲角 恵莉奈

患者さんへの配慮と責任

※特定行為研修：医師等の判断を待たずに、手順書により一定の診療補助（特定行為）を行う看護師を計画的に養成するために設けられた制度。埼玉石心会病院は2022年8月、厚生労働省より「特定行為研修指定研修機関」として指定を受けました。



- 1993年
所沢地区第二次救急医療輪番制病院* 認可
- 1998年
特別集中治療室管理 施設認定

*救急医療輪番制病院とは？
救急車や医療機関から転送されてくる重症救急患者に対応するための病院を予め定めておく制度です。

- 2015年
埼玉県搬送困難事案受入医療機関* 指定
- 2017年
新築移転し349床から450床へ増床、低侵襲脳神経センター、心臓血管センター、ER総合診療センター開設



- 2018年
救急医療功労医療機関として埼玉県知事より表彰を受ける



*埼玉県搬送困難事案受入医療機関とは？
埼玉県における医療制度の一環であり、搬送が困難な緊急の事案に対応するための特定の医療機関です。

1980-

- 1987年
狭山病院(現・埼玉石心会病院)開設
- 1988年
救急告示医療機関* 認可

*救急告示医療機関とは？
救急隊が搬送する傷病者の収容及び治療を行う医療機関です。省令に基づいて知事が認定します。

1990-

2000-

- 2000年
61床増床認可
- 2003年
手術室3室→5室、救命救急室1室→2室へ増室、ホールディングルーム運用開始
- 2004年
許可病床数変更 288床から349床へ増床
- 2005年
救急医療功労医療機関として埼玉県知事より表彰を受ける

2010-

2020-

- 2022年
埼玉県災害時連携病院*1および埼玉県地域DMAT*2 指定病院 指定
救急医療功労医療機関として埼玉県知事より表彰を受ける



*1埼玉県災害時連携病院とは？
災害時に重症患者を受け入れる災害拠点病院と連携を図り、容態の安定した患者を受ける病院です。

*2DMATとは？
大規模な災害や事故などの発生時に、被災地に迅速に駆けつけ救急治療を行うための専門的な訓練を受けた医療チームです。

- 2023年~
救急棟の増築
救急医療の質向上と地域の医療構想に基づいた体制の強化を目的として、救急棟を増築する予定

埼玉石心会病院の歩みとこれから

救急車等の搬送人数

当院救急車*2
(系列クリニックからの搬送も含む)

133人

消防署救急車

10,013人



*2 当院救急車：主に医療機関からの搬送人数

ウォークイン*1 救急患者の 受入人数

(独歩、自家用車、民間救急車等)

13,675人



*1 ウォークイン：消防署救急車、当院救急車以外で、救急外来に来られた患者

救急外来からの 入院患者数

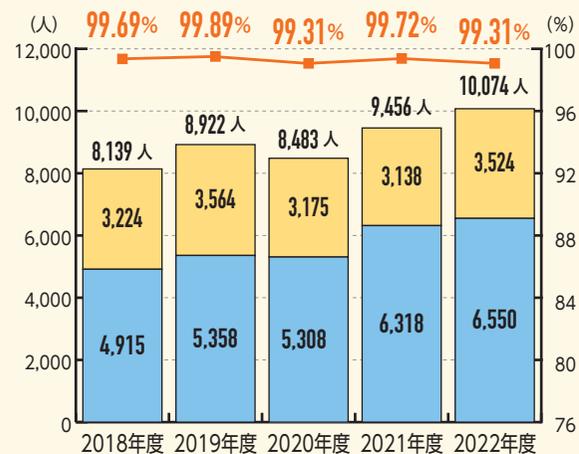
5,589人



2022年

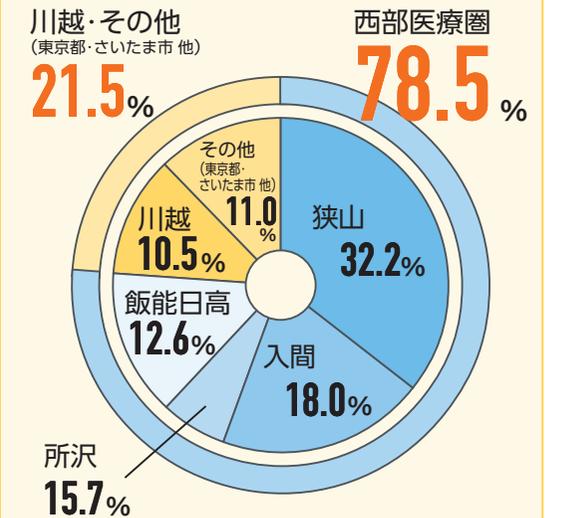
救急搬送受入状況

99%以上
応需率



■ 救急搬送・当院救急車 外来患者数 (帰宅・転院・死亡等)
■ 救急搬送・当院救急車 即日入院患者数
— 応需率

地域別 救急要請受け入れ割合



医療法人 真正会 霞ヶ関南病院

内科、脳神経外科、リハビリテーション科、神経内科、整形外科、糖尿病内科、眼科、もの忘れ外来(老年精神科)、在宅ケア相談外来、胃腸科、歯科



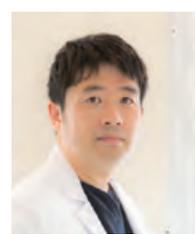
病院長 海津 啓之先生

「老人にも明日がある」の設立理念の下、地域の皆様が安心して暮らせるよう外来、入院、介護保険サービス事業を展開しています。外来では地域の方、高齢の方の生活習慣病予防、慢性疾患の診療に重点をおき、必要時、適切な医療につなげるよう地域の急性期医療機関との連携にも力を入れています。入院では回復期リハビリテーション病棟中心の病床にて急性期の疾患を脱した患者様を受け入れ、多職種によるチームで住み慣れた地域へ帰る支援をしています。

グループには在宅サービス、社会福祉法人を有し、「医療の原点は福祉である」「地域なくして医療は成り立たない」というビジョンを胸に、患者さん・利用者さんの生活を中心に住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう「寄り添う心」と「思いやり」を大切に職員一同取り組んでいます。



外来受付時間
8:30～11:00 / 13:30～16:30
*休診日：土曜日(午後のみ)・日曜日・祝日・年末年始
〒350-1173 埼玉県川越市安比奈新田 283-1
TEL：049-232-1313 (代表)
https://www.kasumi-gr.com/kasumi_south/



院長 杉 佳紀先生

杉ハートクリニック

内科、循環器内科



診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
8:30～12:00	○	○	○	★	○	○	—
13:00～15:00	★	★	★	—	★	—	—
15:30～18:00	○	○	○	—	○	—	—

*休診日：木曜午後・土曜午後・日曜・祝日 ★：訪問診療
〒357-0006 埼玉県飯能市中山 341-1
TEL：042-975-5577 (代表)
<https://sugi-heart.clinic/>

当院は2023年4月、飯能市中山に開院した内科・循環器内科のクリニックです。埼玉県西部地区、特に飯能地区では、常に循環器専門医が常駐するクリニックというのは今まであまりなかったと地元の方々から聞いております。当院では心疾患の原因となる高血圧、糖尿病、不整脈、脂質異常症などの管理や、高度医療機関で行われたカテーテル治療後や心臓手術後の外来経過観察を行っております。また、お1人様では外来通院困難な方に対して、送迎や訪問診療も行っておりますので是非ご相談ください。

杉ハートクリニックでは患者さんや家族1人1人に寄り添った治療ができるように心掛けています。外来通院や訪問診療に関して困っている事がありましたら一度ご相談頂ければ、可能な限りお力になればという思いで診療や相談を行っております。

[石心会グループ契約選手] 自転車競技 梶原悠未選手 活動報告



石心会グループ契約選手の梶原悠未選手は、競技はもちろんのこと、社会貢献や講演などにも力を入れています。ここでその活動の一部をご紹介します。

1 自転車ヘルメット着用の普及啓発活動 (埼玉県和光市)

自転車乗車時ヘルメット着用の義務化に伴い、梶原選手の母校である埼玉県和光市第五小学校において、自転車ヘルメットの寄贈と着用の重要性について講演を行いました。



2 スポーツを学ぶ大学生へ社会貢献の大切さを講演(茨城県北相馬郡)

スポーツ界を担っていく日本ウェルネススポーツ大学の学生たちへ、自分の活動が社会貢献になるということを講演。当日は大学生が献血に協力しました。



3 競技を超えたアスリート達の情報共有で スポーツ界へ貢献(神奈川県川崎市)

梶原選手が日本を代表するトップアスリート達と医療をはじめ、食事・睡眠・ケアについて情報共有。日本のスポーツ界へ貢献活動を始めました。当日は、川崎幸病院の救急部・高橋直樹医師、EMT科・蒲池淳一救急救命士と救急トークショーを行い、スポーツにおける医療の大切さについて講演を行いました。



応援よろしくお願ひします!

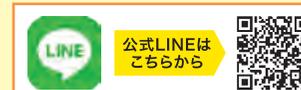
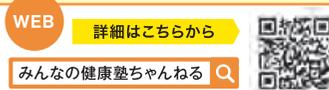
石心会グループ契約選手
梶原悠未選手のページは
こちらから



病院がつくった健康情報サイト

みんなの健康塾ちゃんねる

医療情報を“もっと”お手軽に GET!
LINE インスタ 登録してね!



優しくて頼りになる医療・福祉を目指します。

石心会グループ 埼玉地区

社会医療法人財団 石心会 埼玉石心会病院

〒350-1305 狭山市入間川2-37-20
TEL 04-2953-6611 (代表)
<https://saitama-sekishinkai.jp/>



社会医療法人財団 石心会 さやま総合クリニック

〒350-1305 狭山市入間川4-15-25
TEL 04-2953-9995 (外来予約センター)
〈月～金〉8:00～19:00 〈土〉8:00～17:00
〈日・祝日〉8:30～17:00
<https://sekishinkai-sayama-cl.jp/>
TEL 04-2900-2223 (健診予約)
〈月～金〉8:30～18:00
〈土〉8:30～12:30 〈日・祝日〉休
<https://www.sayama-doc.jp/>



社会医療法人財団 石心会 さやま腎クリニック

〒350-1305 狭山市入間川4-15-20
TEL 04-2900-3333
〈月～土〉8:30～17:00
<https://sekishinkai-sayama-jin.jp/>



社会医療法人財団 石心会 いきいき訪問看護ステーション鶯ノ木

〒350-1305 狭山市入間川4-10-15 TEL 04-2955-2060
<https://saitama-sekishinkai.jp/localcare/ikiiki.php>

社会医療法人財団 石心会 狭山市入間川・入間川東地域包括支援センター

〒350-1305 狭山市入間川4-10-15 TEL 04-2955-1114
<https://saitama-sekishinkai.jp/localcare/irumagawa.php>

社会医療法人財団 石心会 石心会介護支援センター

〒350-1305 狭山市入間川4-10-15 TEL 04-2953-6777
<https://saitama-sekishinkai.jp/localcare/sekishinkai.php>

社会医療法人財団 石心会 石心会ヘルパーステーション

〒350-1305 狭山市入間川4-10-15 TEL 04-2900-1302
<https://saitama-sekishinkai.jp/localcare/helperstation.php>

医療法人社団 東京石心会 さやま地域ケアクリニック

〒350-1323 狭山市鶯ノ木1-33 TEL 04-2955-5000
<https://sayama-care.jp/>

社会福祉法人 石心福祉会 特別養護老人ホームオリーブ

〒350-1313 狭山市大字上赤坂290-1 TEL 04-2950-2400
<https://sayama-olive.jp/>



Cover Photo Story

埼玉石心会病院
左: 西 紘一郎 医師
右: 神戸 将彦 医師



紺碧は、埼玉の広大な大地の上に広がる濃紺の空をイメージしています。地域の皆さんへ医療・福祉に関する情報を幅広く、深くお伝えしていきたいと思えます。



社会医療法人財団
石心会